

キッズ年代にキッズプログラムをすることでの運動能力の差に関する研究

—運動意欲・能力の関係性に着目して—

齋藤 直幸 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード：JFA キッズプログラム 運動能力 運動意欲

1. 緒言

近年、子どもの体力低下が深刻な問題になっている。文部科学省の「体力・運動能力調査報告書」によると、1980年代から20年間以上にわたって体力が低下していると言われている。体力低下の背景には、運動意欲の低下や運動をする時間の減少が原因と考えられる。そのため、文部科学省と日本体育協会は「スポーツ選手活用体力向上事業」や日本サッカー協会は各都道府県で「JFA キッズプログラム」などを実施している。また、2002年にJリーグアカデミーを設立し、育成環境の整備を進めている。スポーツ選手活用体力向上事業やJFA キッズプログラムは、子どもたち自身がスポーツをすることで体を動かす楽しさを感じ運動意欲・能力を向上させるのが目的です。しかし、全国の幼稚園・保育園が実施されていないのが現状です。

そこで本研究では、日本サッカー協会が行っている「JFA キッズプログラム」が子どもたちに与える影響力を明らかにする。そこで、キッズプログラム対象者と非対象者での運動意欲と運動能力の差を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究の調査対象者は、滋賀県サッカー協会が派遣しJFA キッズプログラムを行っている高島市3つの幼稚園・保育園の6歳児とJFA キッズプログラム行っていない高島市の3つの幼稚園・保育園の6歳児を対象とする。各園で、反復横跳び・20m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び・長座体前屈の5種目の測定とともに、運動好きか嫌いかをアンケートする。この測定結果とインタビューを、集計し種目ごとに比較する。

3. 結果・考察

本研究で行った体力テスト5種目の最高値と最低値を比較すると、JFA キッズプログラムを行っている園の方が多く見られる。また、最低値ではJFA キッズプログラムを行っていない園が多く見られる。そして、運動意欲でみると運動好きの方が限りなく高い数値を出していることが分かる。よって、JFA キッズプログラムを行っている園で運動好きが1番高い数値を出したと考える。

5. 結論

本研究では、滋賀県サッカー協会の派遣でJFA キッズプログラムを行っている幼稚園・保育園の運動好きがJFA キッズプログラムを行っていない幼稚園・保育園より、運動能力が高いことが明らかになった。5種目の体力テストの結果から、高い数値を出していることや、また運動好きの子どもが高い数値を出していることからこのような結論にいたった。日本サッカー協会が推進している「JFA キッズプログラム」の活動はとても効果的であり子どもたちの体力向上に繋がっていくと断言できる。これらの研究成果から、日本サッカー協会が推進している「JFA キッズプログラム」を行っていない園などに普及することで日本全体の子どもの運動能力の向上や運動好きの子どもたちが増加することは間違いない。私は、JFA キッズプログラムなどを通して本研究を活かして活動していきたい。